

中池見湿地保全活用計画【実施計画】（原案）パブリックコメント結果及び事務局回答

[パブリックコメント集計]

- 寄せられたパブリックコメントの数 2件（市内： 1件、県内： 0件、県外： 1件）
- 区分されたコメントの数 7件

■パブリックコメント結果及び事務局回答

番号	指摘箇所	意見内容	事務局回答
1	<p>保全の目標 目標カテゴリー1</p> <p>p. 4</p> <p>モニタリング計画</p> <p>p. 26</p>	<p>基盤の地形、地層、水環境保全について、昨年5月決定した新幹線トンネルルートの中で、特にその影響が危惧され、万が一、湿地消滅に、またそうならなくても、湿地の劣化に及ぶことが心配です。水環境の維持を見守ること（監視をし続けることの意）その体制を作ること、そのため日常的に（工事が始まる以前からの）調査が必要。また、モニタリング計画（p. 26）は甘すぎるので、もっと緻密な実施計画が必要と思います。 （例：地下水位計測も場所を何か所か選び、日々観測する体制を。現在の職員方の体制でも可能にしてほしい。）</p>	<p>地下水位の計測は大切と考えております。 ワーキンググループにおいて関係者間で検討し、地下水位のモニタリングが複数個所で実施できるよう計画します。</p>
2	<p>保全の目標 目標カテゴリー1</p> <p>p. 4</p>	<p>水門管理について、なるべく自然へのダメージを与えない。しかも歴史遺産として、農業遺産としての価値もある現在の水門を活かすべきです。伝統的な農業を、先人の知恵を是非、残す形でしてほしい。</p>	<p>現在の計画では、現状の水門に改変を加えず、現状の水門の形状を維持することを基本としています。 また、水門の管理による水位の変化がどのように生態系に影響を与えるかをモニタリングし、今後の本格的な管理を再度計画する計画となっています。</p>
3	<p>指標植物</p>	<p>指標植物の選定が疑問です。水位変化を示す植物でしょうか。今まで、何か所かで実験区を設けて調べてきたはずですが、その結果はどうなっているのでしょうか。現地での観察から、どうしてなのかと思います。 もし、植物を選んでするなら「低茎草本群落」の所を対象にすべきです。中池見は遷移が進んで高茎植物群落が広がってきています。ナカイケミヒメテントウやハッコウトンボも戻ってくるような低茎草本群落を対象としませんか？ また、水位の影響を見るなら（全般の）セイタカアワダチソウやススキではないでしょうか。</p>	<p>現在の計画では、本格的な水門管理に必要な情報（生態系への影響、管理体制等）を得るため、試験的な管理を実施することとなっています。そのため、できるだけ水環境による植生の変化を詳細に得ることを目的に、微地形の変化を反映する植物が選定されています。 今後、本格的な水位管理に移行する際には、ご指摘の内容が主体になると考えております。</p>

番号	指摘箇所	意見内容	事務局回答
4	保全管理のあり方について p. 4	しぼら道の整備等、一般的な公園管理のやり方では、生物多様性も失われます。散策に来ている人達から、最近おもしろくなくなったとの声を聞くことが多く、チョウの調査結果等にもはっきり表れ(都市化の傾向)、ハチの専門家も、種類も少なくなり、種の多様性も(植物を土台にしている)失われてきたことを言っています。自然を知り、もっと自然を大切にしたい手作業での手入れを実施すべきです。公共土木工事的な一律のやり方での方法は、生物多様性とは全く反する無縁のやり方です。	ご指摘の「しぼら道の整備」は、平成 23 年に実施した湿地の外周路の修繕のことと推察します。 その折には、イノシシによる路肩の破壊等が著しく、歩行者にとって危険が及ばないように少し大がかりな作業となりました。 今後の中池見湿地での園路修繕などは、ご指摘のように、自然を大切にしたい、なるべく手作業での実施を導入します。
5	保全管理のあり方について 保全の目標 目標カテゴリー2 p. 4	「蛇谷の実験田」の設置について、タイプ産地ナカイケミヒメテントウヤカワノイチモンジダニの生育環境が、その近くにあることを知っての場所選びだったのか、上記の失敗に加え、やってはいけないことではなかったのか、あまりに中池見湿地について無知?(ゴメンナサイ!)な場所選びではなかったのか。今後もっと中池見について自然から学び慎重にと自問自答です。	ナカイケミヒメテントウヤカワノイチモンジダニは、確認された場所のみ生息しているとは考えにくいのではないのでしょうか。 また、生息確認位置を大きく変更したのではなく、従来の環境(低茎草原～高茎草原)を維持できるような管理手法として現計画となっており、特段の問題はないと考えます。
6	情報・資源の活用のルールについて p. 48	「データ、写真、標本の保存は、事前に設定した場所に一元化します」とあり、現状から察するに、その場所はビジターセンターになるかと思えます。しかし、現在、ビジターセンターには学芸員がおらず、情報の整理や扱い方について大きな不安があります。また、標本については、センターの建物内にきちんと標本を保存する場所が確保されているわけではないので、集めた標本については、保存する設備のある専門機関に預けるようにしています。一元化できることが重要ということは理解していますが、そのために必要なハードソフト両面の整備について、触れられていないことが不安に思います。	ご指摘にある、「事前に設定した場所への一元化」については、ワーキンググループでも検討します。 計画原案では資料一式を一元化するように記載されていますが、例えば、資料の保存先の「情報の一元化」はハード整備を伴わず可能になると思えます。 今後、原案で例示した内容をもとに、関係者間で協議を重ね、ルールを明確にしたいと考えます。

番号	指摘箇所	意見内容	事務局回答
7	全体	<p>今後、国道8号線の工事等で、水、その他について影響があるかもしれません。また、同附近でガス(LNG)輸送のパイプライン等での影響も考慮に入れ、国交省などと計画について早めに連絡をとり、保全計画の中にも反映させて下さい。</p>	<p>ご指摘の工事の計画は、現段階では不明であり、本計画での位置づけはできないと考えます。</p> <p>なお、本計画は、前段となる構想とともに、市のホームページをはじめ、広く情報公開し、中池見湿地の重要性を関係機関に伝えます。</p>